

入学試験過去問題集

(2026年度・2025年度)

関西学院短期大学

目 次

2026年度	学校推薦型選抜専願A 入学試験問題		P. 3
2026年度	学校推薦型選抜併願 入学試験問題		P.10
2026年度	一般選抜A 入学試験問題		P.18
2026年度	一般選抜B 入学試験問題		P.25
2025年度	学校推薦型選抜専願A 入学試験問題		P.33
2025年度	学校推薦型選抜併願 入学試験問題		P.40
2025年度	一般選抜A 入学試験問題		P.45
2025年度	一般選抜B 入学試験問題		P.53
2026年度	入学試験問題 <解答>		P.61
2025年度	入学試験問題 <解答>		P.71

2026年度 入学試験問題

国語（六〇分）

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

秋になると、多くの樹木の葉っぱは枯れ落ちます。ところが、冬の寒さの中で、緑に輝き、生き続ける樹木があります。マツやモミ、ツバキやサザンカ、キンモクセイなどです。これらは「常緑樹」といわれます。

昔から、「どうして、冬の寒さの中で、これらの樹木は緑の葉っぱのままで過ごせるのか」と、不思議に思われてきました。昔の人々は、冬の寒さに出会っても枯れずに、緑のまま、いのちを守り続ける樹木を、「永遠のいのち」の^①シヨウチョウとして、^②アガめてきました。

近年では、常緑樹は身近に多くあり、私たちは見慣れています。そのため、「冬の寒さの中で、どうしても、緑色の葉っぱのままで過ごせるのか」と、不思議に思われていそうにありません。そこで、あえて、「なぜ、冬に、常緑樹の葉っぱは緑色のままでいられるのか」と質問してみると、多くの場合、^③ソクザに答えが返ってきます。

「なぜ、そのようなわかりきったことを、わざわざ質問するのか」というような^④怪訝な表情とともに、「寒さに強いから」という^⑤カンケツな答えが返されるのです。たしかに、寒さに強いのは事実ですから、この答えは間違いではありません。しかし、^⑥きわめて物足りない答えです。

（１）この答えは、常緑樹が寒さに耐えるためにしている努力や、しくみに触れていないからです。寒さに強い植物は、何の努力もなしに、また、何のしくみもたずに、寒さに強いわけではありません。

（２）、夏の緑の葉っぱは、冬のような低い温度にさらされると、寒さで凍って枯れてしまいます。ということは、一年中、同じ緑色のままであっても、葉っぱは、冬の寒さに向かって、冬に凍らない性質を身につける努力をしているのです。

これらの葉っぱは、冬に向かって、葉っぱの中に凍らないための物質、たとえば、「糖分」を増やします。糖分は、甘みをもたらす成分で、「砂糖」の仲間と考えて差し^⑦ツカえありません。

葉っぱが糖分を増やす意味は、ふつうの水と、砂糖水とで、どちらが凍りにくいかを比べれば、わかります。砂糖水のほうが、凍りにくいのです。そして、溶けている砂糖の濃度が高け

れば高いほど、凍りにくくなります。

〔3〕、葉っぱの中の水分に糖が多く含まれるほど、葉っぱの凍る温度が低くなるのです。これは、「凝固点降下」という現象です。「凝固点」というのは、凍る温度であり、「降下」は、低くなることです。ですから、「凝固点降下」は、凍る温度が低くなることです。

実際には、冬に向かって、糖分だけでなく、ビタミンやアミノ酸などの物質も葉っぱの中の水分に多く溶け込まれます。そのため、それらによる凝固点降下の効果により、ますます凍りにくくなります。

冬の寒さを緑のままで過ごす植物たちは、こんな原理を知って実践しているのです。外から見れば何の変化もなく、「寒さに強いから、ずっと緑色をしている」と思われがちな常緑樹の葉っぱは、^{II}寒さに耐える工夫を凝らして生きているのです。

緑のままで冬の寒さを越す葉っぱがこのような工夫をしていることを知ると、「冬の緑の葉っぱを食べると、甘いのだろうか」との疑問が浮かびます。でも、確かめなくてください。植物たちは、動物に食べられてはたまらないので、糖分やビタミン、アミノ酸だけでなく、苦かったり、えぐかったり、有害な物質も葉っぱに含んでいます。ですから、食べると、嘔吐したり、下痢をしたりする可能性が高いです。

「寒さに耐えるために、葉っぱの中に糖分を増やす」というしくみは、冬の寒さに耐える多くの植物に共通のものです。ですから、^{III}確かめるのなら、野菜で確認してください。たとえば、冬の寒さを通り越したダイコンやハクサイ、キャベツなどは、「甘い、旨い」といわれます。糖分やビタミン、アミノ酸などが増えて、甘みや旨みが増しているのです。

（田中修『植物のいのち』より）

問一 傍線部①「ショウチョウ」、②「アガめ」、③「ソクザ」、④「カンケツ」、⑤「ツカえ」をそれぞれ漢字で書きなさい。ただし、⑥、⑦は送り仮名も含めて書きなさい。

問二 傍線部⑧「怪訝」の読みを平仮名で書きなさい。

問三 傍線部Ⅰ「きわめて物足りない答えです」とあるが、なぜ物足りないのか、文中の語句を用いて答えなさい。

問四 空欄(1)～(3)に入る最も適切な語句を次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|-----|---|-----|---|------|---|------|---|-----|---|------|
| (1) | ア | すると | イ | なぜなら | ウ | ところが | エ | そして | オ | だから |
| (2) | ア | もしも | イ | まったく | ウ | たとえば | エ | すると | オ | はたして |
| (3) | ア | つまり | イ | すると | ウ | しかし | エ | および | オ | ところが |

問五 傍線部Ⅱ「寒さに耐える工夫」とはどのような工夫か。「凝固点降下」の語句を用いて述べなさい。

問六 傍線部Ⅲ「確かめるのなら、野菜で確認してください」と筆者が述べる理由について、「植物」、「有害」、「動物」の語句を用いて説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

① 漁網やロープ、釣り糸など海洋に流出して漂うゴーストギア（幽霊漁具）による生物や水産資源、船舶への悪影響が危惧されている。実態調査と対策を急ぐ必要がある。

流出は災害や事故、不適切な管理による。ほとんどが丈夫で長持ちするプラスチック製のため、問題が長期化する。環境省が2022年度に国内の海岸78地点で行った②ヒョウチャクゴミ調査では、重量で3割が漁具だった。環境団体は、北太平洋にあるごみが集まる「太平洋ごみベルト」で回収されたごみは漁具が4分の3以上で、日本からのものが最も多かったと報告している。

漂う漁具は、アザラシやウミガメ、魚などを捕らえて死なせる「③ゴーストフィッシング」を引き起こす。捕まった生物を餌とする動物も捕らえられて被害が拡大し、その④シガイが分解されれば、漁具は再び漂って被害を繰り返す。藻場の磯焼け、サンゴの白化にも影響し、希少種も⑤脅かす。

海上交通や海難事故への影響も⑥キグされる。93年に韓国で292人が死亡したフェリー事故はスクリューにロープが巻き込まれたことも影響したとみられる。

流出の抑止につながると期待されるのは、漁具に漁船番号など所有者の情報を記載する「マーキング」だ。国連食糧農業機関は自主的ガイドラインを策定した。国際海事機関では義務化の検討が続く。台湾はゴーストギアになりやすい刺し網で義務化した。

プラスチック汚染に対処する拘束力ある国際条約づくりでも対応を議論中だ。

日本では、水産資源保護法施行規則が漁具流出時の報告を求めているが、漁船の大半を占める20トン未満の船は対象外。マーキングは、流出対策ではなく、漁具への船の⑦シヨウトツなどのトラブルを防ぐことを主な目的としている。

リサイクルしやすい漁具や分解される漁具の開発も進められ、流出防止に積極的な地域もあるが、地域や漁業者間で意識の差がある。

問題の周知や意識向上が必要で、そのためにも被害の実態説明を進めるのが⑧キッキンの課題だ。同時に、流出防止策の強化、漁具リサイクルの徹底、対応に手が回りきらない中小漁業者への支援など、できる対策を急ぐ必要がある。

ゴーストギア対策に取り組む国際組織GGGIに、ノルウェーや米韓などは加入している。日本は「情報収集と勉強中」だが、漁具を流出させてきた責任もあり、国際連携を強めるのが当然だ。世界の知見を生かす制度を作り、国内の漁業者や製造者らに一層の対策を促さねばならない。

問一 ①「漁網」、②「脅かす」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。ただし、③については送り仮名も含めて答えなさい。

問二 ㊦「ヒョウチャク」、㊧「シガイ」、㊨「キグ」、㊩「ショウトツ」、㊪「キッキン」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問三 傍線部④について、「ゴーストギア」との関係についてまとめなさい。

問四 ゴーストギアについて、その流出を防止するために期待される国際的な取り組みが二つあるが、それぞれ文中から五字で抜き出さない(句読点、記号も字数に含むものとします)。

問五 筆者がゴーストギア対策として述べていることを「被害の実態解明」以外で三つ答えなさい。

問六 筆者は、なぜ日本がゴーストギア対策に取り組む必要があると考えているのか。「日本」「漁具」の語句を用いてまとめなさい。

問七 次のア～オの中で、本文の内容と合致しているものを一つ選び記号で答えなさい。

ア ゴーストギア対策として、法律を整備して罰則を設けていくことが重要である。

イ ゴーストギア対策が徹底されているため、大きな問題になっていない。

ウ 日本は、国際連携を強めて世界の知見を生かす制度を作っていかなければならない。

エ 漁具への「マーキング」制度を設けることで、ゴーストギア対策の費用を抑えられる。

オ ゴーストギアを調査することが対象地域の生態系を明らかにすることにつながる。

解答用紙（二枚のうち一）

問六	問五	問四	問三	問二	問一
		(1)		(d)	(e) (a)
		(2)			
		(3)			(f) (b)
					(c)

受験番号			

問 →	①	
	②	

問一	
△	□
▽	△
	○

問三

[illegible]

問五		

問七	
----	--

受験番号

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

論理の (a) な側面とは

筆者が論理的であること、そして論理的思考が「ひとつ」ではないことに気づいたのは、アメリカの大学に留学して、エッセイと呼ばれる小論文を提出した時だった。「評点不可能」と赤ペンで書かれ突き返された時の衝撃は今でも忘れられない。それ以上に衝撃的だったのは、どんなに① テイネイに書き直しても同じコメントが繰り返された一方で、いったんアメリカ式エッセイの構造を知って書き直すと、評価が三段跳びで良くなったことである。英語が急に上達したわけでも知識が格段に増えたわけでもない。しかしアメリカ式のエッセイの型で書く、と、それまで自分が重要だと思っていたことが必要なくなり、エッセイのポイントである主張すらも変わってくる。 (ア) 必然的に結論も変わってくるという不思議を体験した。それは論文の構造に導かれた論理と思考法の日米の違いという、まさに「見えない文化衝突」の体験だった。

論理の筋道というのは、作文の構造によって導かれること、それを使えばその都度一から考える必要はなく、論理的に考え、書くことができること、 (イ) その論理の型を共有している人たちと② エンカツにコミュニケーションできることを実体験から学んだ。論理的思考はグローバルに共通なものではなく、実は文化によって異なっており、それぞれの教育の過程で身につけていくものなのである。そして論理的思考の型は、それぞれの社会が何を重視し文化の中心に据えるのかと深く関わっている。

(ウ) 日本では「西洋」と③「括弧」に論じられることが多い。アメリカとフランスの小論文の構造は実は全く異なっており、相手国で自国の小論文の型で書くと、「何を言っているのか分からない」、「つながりが不明」、「全く不十分な議論」、そして「論理的でない」と落第点がつけられるのである。

なぜそんなことが起こるかといえば、作文を書く目的が異なるからである。結論を先取りするならば、アメリカ式のエッセイは、自己の主張を分かりやすく効率的に論証して、相手を説得することが目的であるのに対して、フランス式小論文の目的は、時間をかけてあらゆる可能

性を^④ギンミし^⑤矛盾を解決すること、それを公共の福祉という政治的判断に生かすことである。

アメリカ式エッセイは主張に関係しない要素を削ぎ落とすことによって、複雑な世界を単純化して問題解決を行うのに対して、〈正―反―合〉の^⑥ベンショウ法を型にしたフランス式小論文は、常識的な見方とそれに反する見方、それら二つを総合して矛盾を解決することで、多様な人々で構成される社会全体の利益に目を向けさせる。それぞれの国の小論文には、あるべき結論の形と結論に至る道筋―それが論理となる―がそれぞれに存在する。

アメリカ式エッセイは、経済のグローバル化と英語の^⑦覇権的地位の獲得とともに、ビジネスのみならず多くの領域で世界標準の書き方になっている。確かにアメリカ式エッセイを学ぶことは、効率的なコミュニケーションを行う上でとても役に立ち、多くの人に必須の知識と技術であることは間違いない。論文の書き方やビジネスの^⑧シナンショを見ると、「論理的思考」といわれているものの実態は、このエッセイの思考法であることが多い。^{II}（エ）^{II}そのみで押し通そうとすると、^{II}論理的思考の思わぬ落とし穴にはまることも確かである。フランスとの対比はそれを鮮やかに見せてくれる。

（渡邊 雅子『論理的思考とは何か』より）

問一 傍線部①「テイネイ」、②「エンカツ」、④「ギンミ」、⑥「ベンショウ」、⑧「シナンショ」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 傍線部③「一括り」、⑤「矛盾」、⑦「覇権」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。ただし、③については送り仮名を含めて書きなさい。

問三 この文章に見出しを付ける場合、空欄（a）に入る最も適当な語句を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 衝撃的
- イ 効率的
- ウ 文化的
- エ 政治的
- オ 必然的

問四 空欄(ア)～(エ)に入る最も適当な語句を次の①～④の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|-----|---|------|---|------|---|------|---|------|
| (ア) | ① | ただし | ② | すると | ③ | あるいは | ④ | ところが |
| (イ) | ① | なぜなら | ② | かえって | ③ | しかし | ④ | そして |
| (ウ) | ① | たとえば | ② | 反対に | ③ | さて | ④ | やはり |
| (エ) | ① | つまり | ② | しかし | ③ | なぜなら | ④ | ならびに |

問五 傍線部Ⅰに「アメリカとフランスの小論文の構造は実は全く異なっており」とあるが、筆者はそうなることが起る理由を、どのように説明しているか。文中の語句を用いて簡潔に述べなさい。

問六 傍線部Ⅱに「論理的思考の思わぬ落とし穴」とあるが、筆者が述べる「思わぬ落とし穴」とは、何を指しているのか。「教育」「グローバル」「文化」の語句を用いて答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

何かとストレスが多い日常生活で、^①自然に触れると気分が良くなると感じることもあるだろう。森林や植物の^②イやし効果はアンケートなどの^③主観的な評価になりがちだ。だが、血圧や脳活動など体の反応を測り、自然の持つ力を裏付けるデータも^④チクセキされつつある。

「2000年に入って、^⑤脳活動や自律神経活動の計測法や機器が進歩し、森林で起こる人の体の変化を測りやすくなった」

千葉大環境健康フィールド科学センターの宮崎良文名誉教授はこう語る。

宮崎さんは1990年代から森林浴の生理的効果を研究している。最初は鹿児島県・屋久島の森で、ストレスを受けた時に^⑥ブnpitzが増える「コルチゾール」の唾液中の濃度を実験で計測した。その結果、気温や湿度などの条件をそろえた室内での計測に比べて、被験者のコルチゾール濃度が低下した。コルチゾールは以前は血液でしか測定できなかったが、唾液でより^⑦簡単に調べられるようになった。

日本は国土の約7割を森林が占める。宮崎さんらは05～18年、北海道から沖縄まで全国63カ所の森林で大学生ら計756人を対象に森林浴の効果を調べた。1カ所につき、現地の下見を含めて総勢50人ほどの人手がかかる大がかりな実験だ。

集まったデータによると、市街地（都市部）を15分ゆっくり歩いた時に比べて、森林を15分ゆっくり歩いた時の方が、リラックス時に高まる副交感神経の活動が72%上昇していた。一方、ストレス状態になると高まる交感神経活動は17%低下した。唾液中のコルチゾール濃度も低下し、ストレス状態が軽減することが示されたという。

Ⅱ こうした体の反応は森林を眺めたり、葉ずれの音や小川のせせらぎを聴いたり、木の香りを嗅いだりする五感の刺激から得られる。

実際に、座って15分間、森林を眺めた場合と市街地の風景を眺めた場合を比べても同様の結果が見られたという。座って森林を眺めた人の脳（前頭前野）の活動を調べた実験では、都市部より森林の方が沈静化することが分かった。

同センターの池井晴美特任助教らは、ヒノキの枝葉から^⑧チュウシュツした精油、ヒノキやスギなどに含まれる香り成分（α-ピネンとリモネン）をそれぞれ嗅いでもらう実験をした。その結果、空気を嗅いだ時と比べて脳活動が沈静化したり、副交感神経の活動が上昇したりした。

宮崎さんらの研究では、森林の中では全体として血圧も低下傾向が見られた。ただし、個人差が大きく、中には血圧が上がる人もいたため、血圧の変化を詳しく調べた。その結果、血圧の高い人は下がり、血圧の低い人は上がることが示された。「都市部ではこうした傾向は見ら

れず、自然には、^Ⅲ 体を本来あるべき状態に整える生体調整効果がある」と宮崎さんは見ており、今後も分析を進めるといふ。

こうした森林浴の効果はどれぐらい続くのか。

鳥取県智頭町の森林セラピープログラムに、血圧が高めの男性14人に参加してもらった。参加3日前の高い方の血圧は132・7ミリHg（水銀）だったが、参加直後は117ミリHgに下がり、3～5日後も低下が続いた。別の被験者で再度実験したが、同様の結果だったといふ。

森林で見られた生体調整効果は、室内でバラの花を眺めた実験でも観察された。高校生や会社員、高齢者ら214人に、バラの花を4分間眺めてもらったところ、何も見なかったときに比べて交感神経活動を調整する効果が示された。花を見ることで、高ストレス状態の人はリラックスし、少しぼんやりした状態の人は元気になると考えられるという。

宮崎さんは、健康な人で得られた森林や植物のストレス軽減効果が、うつ病や依存症の患者などでも得られるか、医療機関の協力を得て研究を進めている。宮崎さんは「病気が治せるわけではないが、生活の中にうまく自然をとり入れることによって、ストレスを減らして病気になるにくい体を作れるのではないか」と話す。

森林に足を運ばなくても、公園、部屋の植物、木材に触れるといった身近な自然でもリラックス効果は得られるという。宮崎さんによると、実験ではアンケートによる主観評価も調べているが、本人の^⑤ カイテキ性と体の反応はだいたい一致するという。「自分の好みを尊重して、日常生活に自然を取り入れてほしい」と助言する。

（毎日新聞「科学の森 五感の刺激で心身整う 森林浴の生理的效果とは」

〈二〇二三年六月八日〉より）

※出題のため、一部形式を改めている。

問一 傍線部①「自然」、②「主観」、③「簡単」の対義語を、それぞれ漢字で書きなさい。

問二 傍線部④「イヤシ」、⑤「チクセキ」、⑥「ブンピツ」、⑦「チュウシュツ」、⑧「カイテキ」をそれぞれ漢字で書きなさい。ただし、④は送り仮名を含めて書きなさい。

問三 傍線部Ⅰについて、そのことを具体的に説明している一文を文中から抜き出して、最初の六字を答えなさい（句読点、記号も字数に含むものとします）。

問四 傍線部Ⅱ「こうした体の反応」とは、どのような反応か。簡潔にまとめなさい。

問五 傍線部Ⅲ「体を本来あるべき状態に整える」とあるが、文中で示されているその具体例を二つ書きなさい。

問六 宮崎良文名誉教授らは、様々な森林浴に関する研究結果を踏まえ、人々にどのような生活上の工夫を助言しているか、説明しなさい。

解答用紙（二枚のうち一）

問一		問二	問三	問四	問五	問六
⑥	①	③		（ア）		
				（イ）		
		⑤				
⑧	②			（ウ）		
				（エ）		
		⑦				
	④					

--	--	--	--	--	--

受験番号				

二〇二六年度 一般選抜A入学試験問題（二月七日実施）

国語（六〇分）

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

わが家の冷蔵庫の製氷皿は割れている。ひねったら割れてしまい、一部の氷ができない。冷蔵庫が20年以上前の製造でメーカーに部品の在庫はなく、サイトにもぴったりのは見当たらない。本体を買い替えるには目立った故障はないし、高価だ。

部品が見つからず、修理もできずに困った経験は少なくない。スマートフォンに至っては中がどうなっているか①カイモク分②からず、作動がおかしくなれば即、買い替えてきた。

何か変だ。自分で決めるのではなく、修理できない、部品がないという外部要因で自分の暮らしが決められる。

子供の頃は、もう少し修理していた。自転車のパンクは自分で直せだし、親は古いセーターをほどこいて、別のセーターに③アみ直していた。

④これからも延々と、壊れたら、だめになったら、買い替えていつていいのか。

「大量生産が始まり、人々の消費の速度を超えてしまった。新品が格好いいという価値観も植え付けられ、どんどん買い替えるようになった」

東京農工大非常勤講師（環境哲学）の吉田健彦⑤さんはこう説明する。「技術者倫理」の授業を持つプログラマーで、ミシガン大教授の法学者が著した『⑥修理する権利 使いつづける自由⑦』で解説を書いた。

吉田さんは「修理をするようなデザインにも仕組みにもなっていないのは問題だ。法整備を含め、修理がより自由にできる社会を目指すのが『修理する権利』の運動で、欧米ではじわじわ広がっている」と話す。

買い替えないと、モノが売れなくて企業が困るし、技術革新も起らないとされる。この点については「⑧ヒンパン⑨に買い替えないと利益が上がらないような価格が正当なのか。技術革新は買い替えとは別のベクトルで可能ではないかとの論がある」という。

私たちの意識もある。修理すること、古くて完全でないこと、手を入れて暮らしていくことを「格好悪い」「面倒だ」、買い替えて済むなら「そっちの方が楽だ」と思ってしまうことは多い。

「修理を押し付けるつもりはない。『買い替えたほうが楽』という人はそれでいい。ただ、買

受験番号

い替えるサイクルと便利さの裏に環境負荷や低賃金労働があることを知ってほしい」(吉田さん)

自分の選択や行動の裏を知るとは、同時に「自分自身の選択」を取り戻す^⑤ スベでもある。吉田さんは「本当に自分が選択したものなのか。企業^④が、社会^⑤が作り出した幻想かもしれない」と訴える。

自分の選択と違っていても、知らぬ間に「新しくて完全なものに囲まれた生活」をよしとする考えにからめとられているかもしれないのだ。

修理する権利は法の分野から生まれた考えだ。^① ① 自分の暮らしを取り戻すためには、最終的には法律が必要となろう。それまでにできることはあるのか。

吉田さんは「企業対消費者という構図にしてしまうと発展しない。まずは、できることから始めたい。修理は楽しいと思う風土が醸成されればいいし、企業や街の修理屋さんも収益を上げられる仕組みが必要だ」と言う。

日本は古来、暮らしに修理が浸透していた。割れた食器を金で継ぐ金継ぎや包丁の研ぎ直しがあり、着物も仕立て直した。吉田さんが食器を割ってしまうと、パートナーが金継ぎをしてくれるそうだ。

「新しくなくても完全でなくても、長く記憶や経験を共有するモノには愛着がわく。そういったモノに囲まれたほうが、自分の人生と思えるのではないか」

⑤ スマホを部品交換して10年以上使い続けられる日が来ることを祈る。

(産経新聞「令和社会学」修理 消費文化を見つめ直す」(二〇二五年八月十九日)より)

※出題のため、形式を一部改めている。

問一 傍線部①「カイモク」、②「アミ」、③「ヒンパン」、④「スベ」をそれぞれ漢字で書きなさい。ただし、⑤については、送り仮名も含めて書きなさい。

問二 傍線部①について、筆者は買い替えることによって起こる社会問題をこれより後の文章で二つ提示している。それぞれ、文中より四字と五字で抜き出して答えなさい。

問三 傍線部②について、「修理する権利」が目指す社会を文中より十一字で抜き出しなさい。

問四 傍線部③について、幻想とは何を指すか。筆者の考えを文中より二十四字で抜き出して答えなさい(句読点、記号も字数に含むものとします)。

問五 傍線部①について、筆者の考える「自分の暮らしてない暮らし」を「部品」の語句を用いてまとめなさい。

問六 傍線部②について、筆者はなぜそう考えるのか。その理由を「修理」「選択」「愛着」「人生」の語句全てを用いて簡潔にまとめなさい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

和菓子は五感の総合芸術である。

和菓子の^①老舗「虎屋」一六代店主、黒川光朝氏の言葉である。和菓子は、味や香り、見た目はもちろんのこと、舌触り、そして名前（菓銘）の響きといった、五感を通して楽しむ「芸術」で、季節感や自然、時代・時節の移り変わりなどを感じ取ることのできるものだという。

へ A 和菓子とは、日本の伝統的な菓子のこと、主に明治時代以降に広まった洋菓子と区別する言葉として用いられるようになった。現代の和菓子の原型ができたのは、砂糖のリユウツウが拡大した江戸時代に入ってからだといわれている。上菓子（元は宮中や^③シャジに献上したり、茶席やお祝いで用いられる菓子のこと）の^④意匠（色や形）に様々な工夫が加えられたり、菓銘がつけられるようになったのもこの頃である。意匠や菓銘は、季節感や、その菓子が用いられる茶会や^⑤ギシキなどに合わせた意味が込められている。

へ B 和菓子の意匠・菓銘では、季節感を抽象化したものとともに、アが多い。動植物の姿形を真似たり、自然現象（春霞など）や風景を表現したもので、カラフルな色づけがなされたものも多くみられる。例えば、^⑥トウメイ感のある水色は涼しさを伝え、朱色の紅葉に似せた菓子からは秋を感じることができる。

へ C これは、菓子を通して自然の色や形を表視するものであるが、この「自然」は、例えば第四章で触れたオレンジの「自然な」色（オレンジ色）とは異なる自然観である。後者は、色がその食べ物の味や熟し具合を表すもの、つまり、生体的変化に基づいて作り出される色（または、人々がそう信じている色）である。一方、^①和菓子が表す自然の中には、実際には食べられない自然（例えば川の流れや金魚など）も含まれており、必ずしも「おいしそうな」色として作られているわけではない。この意味で和菓子は、自然のミニチュア化だといえる。菓子そのものを花や動物、自然現象などの自然に見立て、見る人・食べる人に四季や自然を感じてもらうためのものである。

へ D 例えば茶席では、菓子の意匠・菓銘の意味や^⑦シユコウについて会話を交わすことも重要な茶の湯の楽しみの一つである。会話を楽しむためには、季節や色はもちろんのこと、菓子が表現している世界観を理解する必要がある、そのためには、関連する教養とそれを感じ取る感性とが必要である。こうした色と自然とを感じ、愛でる美学は、日本で古くから続いてきたもので、例えば平安時代の宮中での遊びや男女のやりとりなどにも見て取ることができる。こうしてみると、和菓子の色からは、自然観や日本独特の美学とともに、奥深い歴史を

も^⑧垣間見ることができる。

また、季節感を感じさせる和菓子の色や形は、その移り変わりを伝えることも重要である。そこからは、四季の違いや変化を楽しむことができるとともに、^{II}万物の無常さも読み取れるのではないだろうか。和菓子は食べてしまうと、その色鮮やかな姿形は消えてしまう。刹那に楽しむ色や味、そうしたはかなさこそが、和菓子の自然美、美学に現れているともいえるだろう。

へ E へ

(久野 愛『視覚化する味覚―食を彩る資本主義』より)

※出題のため、形式を一部改めている。

問一 傍線部①「老舗」、④「意匠」、⑧「垣間見る」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。ただし、⑧は送り仮名を含めて書きなさい。

問二 傍線部②「リュウツウ」、③「シヤジ」、⑤「ギシキ」、⑥「トウメイ」、⑦「シユコウ」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問三 空欄 ア に入る語句は何か。左の1～6から最も適当なものを選び、番号で答えなさい。

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1 自然を愛でたもの | 2 自然を侮ったもの | 3 自然を模したもの |
| 4 自然を誇張したもの | 5 自然を壊したもの | 6 自然を用いたもの |

問四 傍線部I「和菓子が表す自然」とはどのようなものか、簡潔に説明しなさい。

問五 左の文章は本文中のものである。これが入る最も適当な箇所をへAへへEのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

さらに、和菓子に込められた自然の美学は、その色・形に留まらず、菓銘や、見る・食べる人の教養や感性をも含めたものだといえる。

問六 傍線部II「万物の無常さも読み取れるのではないだろうか」と筆者が考える理由について、簡潔に述べなさい。

二〇二六年度 一般選抜A入学試験問題（二月七日実施）

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一	①		④	⑧	
問二	⑥	②	⑦	③	⑤
問三					
問四					
問五					
問六					

受験番号				

--

--

--

--

--

--

--

国 語 (六〇分)

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

私たちの誰もが世間という言葉を使っている。世間を知らない大人は一人もいないのである。それにもかかわらず世間とは何かと聞けばきちんと答えられる人はいない。世間について研究した人もほとんどいないのである。世間を社会と同じものだと考えている人もいるらしい。しかし世間は社会とは違う。明治以降世間という言葉は文章の中からは徐々に消えていったが、会話の中では今でもしばしば使われ、諺の形ではきわめて使用^①ヒンドが高い。他方で社会という言葉は明治以降徐々に文章の中で使われはじめ、学者やジャーナリスト、教師などはこの言葉を使うが、その意味は西欧の歴史的背景の中で生み出されたかなり A ② であり、世間がもっているような具体性を欠いている。

西欧では社会というとき、個人が前提となる。個人はユズリ渡すことのできない尊厳をもっている^②とされており、その個人が集まって社会をつくるとみなされている。したがって個人の意思に基づいてその社会のあり方も決まるのであって、社会をつくりあげていうことは十分に認められているわけではない。しかも世間は個人の意思によってつくられ、個人の意思でそのあり方も決まるとは考えられていない。世間はシヨヨとみなされている^③のである。

家庭の中で親が子供に「日本の社会では……」と話すことはそう多くはないだろう。しかし「そんなことでは世間には通用しないよ」などということはしばしばあるだろう。「渡る世間に C はなし」とか「世間の口に D はたてられぬ」などの諺を知らない人もない。日常会話の中では、「世間」という言葉は今でも十分に生きているのである。それどころか私達は世間という枠組の中で生きているのであって、誰もが世間を常に意識しながら生きているのである。いわば世間は日本人の生活の枠組となっているにもかかわらず、その世間を分析した人がいないという状況なのである。

私達は皆いつも世間の目を気にして生きているのであって、世間のオモワクに無関心な人はいない。アえていえば日本人は皆世間から相手にされなくなことを恐れており、世間から排除されないように常に言動に気をつけているのである。

親と子の葛藤にもこの問題が深く関わっていることが多い。親は長年の間世間の荒波をく

ぐって生きてきた。世間というものの恐さを十分に知っているのである。しかし子供はまだ世間を知らない。子供には自分の夢があり、それが実現できると思っている。親は自分が苦勞した世間との葛藤を子供にはさせたくないと思っている。親と子の葛藤の多くはこの種の問題なのである。親が子供に世間について教えればよいのだが、^{II} 親自身世間を対象化して教えることができない。何故なら親は自分の経験から自分が関わった世間を知っているにすぎず、そこに普遍的な観点を持ち込むことができないからである。世間は人によってさまざまな形を取り、普遍的な形で説明することが困難なのである。それと同時に世間というもののが理屈を越えたものだということも、説明に困る点なのである。あとで詳しくみるように、世間という言葉は長い年月をかけてつくられてきたもので、必ずしも欧米流の概念では説明ができない。しかも情理や感性とも深い関わりがあるので、合理的に説明することも難しい。親が子供にしばしば「理屈をいうな」と^⑥シカるのも、その説明の難しさ故なのである。

(阿部 謹也『「世間」とは何か』より)
※出題のため、一部形式を改めている。

問一 傍線部①「ヒンド」、②「ユズリ」、③「シヨヨ」、④「オモワク」、⑤「アえて」、⑥「シカル」をそれぞれ漢字で書きなさい。ただし、②、⑤、⑥は送り仮名を含めて書きなさい。

問二 空欄A、Bに入る語句は何か。それぞれ最も適当なものを左の1～5から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| A | 1 | 基本的 | 2 | 現代的 | 3 | 持続的 | 4 | 初歩的 | 5 | 抽象的 |
| B | 1 | 一時的 | 2 | 最終的 | 3 | 短絡的 | 4 | 民族的 | 5 | 歴史的 |

問三 空欄C、Dに入る語句は何か。それぞれ左の1～5から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| C | 1 | 妖 | 2 | 狼 | 3 | 鬼 | 4 | 狐 | 5 | 蛇 |
| D | 1 | 壁 | 2 | 戸 | 3 | 柱 | 4 | 梁 | 5 | 門 |

問四 傍線部I「私達は世間という枠組の中で生きている」とは具体的にどのようなことか、「排除」、「意識」の語句を用いて説明しなさい。

問五 傍線部II「親自身世間を対象化して教えることができない」のはなぜか、筆者が考える二つの理由をそれぞれ述べなさい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

情報化社会のなかで「実用知識」がもてはやされています。今年度から高校の「国語」の現場でも「直接役に立たない」文学作品ではなく、社会で「役に立つ」実用文を学ばせる方向へと舵が切られました。契約書や^①ホウレイを読む力、企画書を書く力こそ、いま求められているのです。

けれど「知」が私たちの社会を創造してゆく真の力であるなら、そのときの「知」とは「知識」ではなく「知性」のことである、と私は確信するものです。「役に立つ」知識Ⅱ情報なるものは、まさにそれが^Ⅰ社会的有用性という基準によつて実利的な目的に供されることで、すでに恣意的な既存情報のパッケージになり果てているのです。

このようなことが起こったのは、かならずしも近年のことではありません。いまから二百年も前、ボストンに「実用知識普及協会」なる団体が設立されています。アメリカの保守主義的な政治家が、労働者や市民に出版物をつうじて実用知識を提供し、市民の社会的^②コウケンを引き出そうとしたのです。けれど^Ⅱ「知識」とはしばしば体制順応的な実利性に奉仕するだけで、そのような「知識」によつては、人間の命そのものについて、自然の摂理について真に学ぶことは不可能です。

この時代のアメリカを生きた思想家ヘンリー・ソローは、知性は知識階級（エリート）のものではなく、民衆の日々の倫理意識から生まれると考えました。彼は、自分が何も知らないことをよく知っている謙虚で聡明な知性を、逆説を込めて「実用的無知」^Ⅲと呼び、これこそ知性ある人間の謙虚なあり方だ、としました。暴論にきこえるでしょうか。私には、たいへん深い批判的知性の^③ハツロだと思えます。

ウクライナからの戦火と殺戮のニュースに心を痛めない人はいません。世論もメディアも、善悪二元論的な理解に傾き、軍事的・政治的情報分析があふれています。こうした日々の情報に麻痺しかけた思考力を守ろうと、私は深い歴史的知性の^④賜物としての文学へと回帰します。

帝政ロシアのナポレオン戦争下の揺れる人心を共感を込めて描いたトルストイの『戦争と平和』。ウクライナ生まれのユダヤ系作家グロスマンの、独ソ戦の極限状況に置かれた「いのち」の^⑤ソングンを描く『人生と運命』。詩人アルセニー・タルコフスキーは、国境によつては分断しえないウクライナやロシアの野や森の美しい広がりや抒情的に歌っています。そして十九世紀の最後の年にロシアを旅し、霊的な^⑥啓示を受けた詩人リルケ。彼の詩集「時祷書」には、キエフのペチェールシク大修道院の地下洞窟で修行した昔の聖僧たちがミイラとして「生きつづける」高貴な姿が描かれています。彼らは窓のない家のように生き「もはや死ぬことはあり

ませんでした」とリルケは不死への深い信仰を込めて書いています。

私は、たやすく人々の命が失われているいまこそ、個の肉体の死を超えて受け渡される「いのち」の尊厳を^⑦ソウゼツな想像力によって描いてきた文学的知性の^⑧軌跡を、希望とともに考えつづけたと思うのです。

（朝日新聞「知は力なり」〈二〇二二年六月十二日〉より）

※出題のため、一部形式を改めている。

問一 傍線部①「ホウレイ」、②「コウケン」、③「ハツロ」、⑤「ソンゲン」、⑦「ソウゼツ」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 傍線部④「賜物」、⑥「啓示」、⑧「軌跡」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

問三 傍線部Ⅰ「社会的有用性」の意味を、文中から九字で抜き出して答えなさい（句読点、記号も字数に含むものとします）。

問四 傍線部Ⅱについて、筆者は「知識」とその限界について、どのように述べているか答えなさい。

問五 傍線部Ⅲについて、思想家ヘンリー・ソローの考えた「実用的無知」とは、何を指すか。文中から抜き出して答えなさい。

問六 この文章には左の見出しが付けられている。（１）、（２）に入る最も適当な語句を文中からそれぞれ二字で抜き出して答えなさい（句読点、記号も字数に含むものとします）。

いま、(1)ではなく(2)を

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
④	①
⑤	②
⑥	③

問二	
B	A

問三	
D	C

問四

問五	
②	①

受験番号				

解答用紙
(二枚のうち二)

問 一	
⑤	①
⑦	②
	③

問 →	
④	
⑥	
⑧	

[illegible]

問四

問五	
----	--

問六	(1)	
	(2)	

受験番号

--	--

11

22

3

10

--	--

2025年度 入学試験問題

二〇二五年度 学校推薦型選抜専願A入学試験問題（十一月十六日実施）

国語（六〇分）

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人間が生み出したかと思いがうような文章や画像、音声などを作り出す人工知能「生成AI」が急速に、働く現場に広がっている。ボストンコンサルティンググループが世界15の国と地域で1万3千人以上を対象に職場でのAI活用を調査したところ、業務外も含み「生成AIツールを日常的に使用している」と^①カイトウした従業員の割合は52%と、昨年の20%から急増。管理職では64%、経営層は88%に達し、働き手全体に浸透していることが分かる。

科学研究の場でもAIの活用は進む。学術論文の翻訳や^②コウセイ、引用文献の整理やデータの分析など、研究活動を支援するツールが登場。効率化による成果^③ソウシュツの加速が歓迎される一方、研究の^④コウセイさをどう担保するのは議論されているところだ。今年2月、AIが生成した図がでたらめだったとして、学術誌に掲載された中国の研究者らの論文が撤回され、物議を^⑤醸した。

専門家が確認しながらなぜ掲載されてしまったのか不思議な事例だが、もっと複雑な課題もある。生成AIを使うことにより、意図せずに他者の研究やコンテンツを盗用してしまったり、学習データの影響でバイアス（^⑥ヘンコウ）が生じてしまったりするかもしれない。論文執筆のかなりの部分をAIに任せただけの場合、それは誰の著作物となるのか、という疑問もある。こうした点は、「書くこと」を^⑦ナリワイにするわれわれ記者にとっても、ひとつことではない。

メディア業界では、記事本文や要約の生成などでAI活用が模索されている。個人的には取材時の録音の文字起こしと翻訳くらいでしか活用できていない。試しに取材内容の要約を生成してみたことがあるが、記事執筆のたたき台にもならなかった。取材相手が話した要点はまとまっても、それと記事化すべきことが、必ずしも一致しないからではないかと思う。

社会背景や読者の関心を^⑧カンアンし、何に着目して記事をまとめるか。人間の記者の^⑨創意工夫に、今のところは軍配が上がりそうだ。ただ、AIの技術発展は目覚ましく、負ける日がすぐ来るかもしれない。

AIに手間を肩代わりさせるだけでなく、AIと融合するからこそ可能な、上質な報道を実現するにはどうすればよいか。「人間記者」の真の価値が試されている。

（産経新聞「【記者発】人間の記者はAIと真の価値を創造できるか」

〈二〇二四年七月二八日〉より）

受験番号

問一 傍線部イ「カイトウ」、ロ「ソウシュツ」、ニ「ヘンコウ」、ホ「ナリワイ」、ヘ「カンア
ン」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 傍線部ア「コウセイ」およびB「コウセイ」は同音異義語である。それぞれ適した漢字
で書きなさい。

問三 傍線部ハ「醸した」の読みを送り仮名も含めて平仮名で書きなさい。

問四 次の①～④の意味に合う最も適当な語句を文中からそれぞれ二字で抜き出して答えな
さい。

- ① しみとおること。
- ② 物事を学問的に深く考え、調べ、明らかにすること。
- ③ 全体を小分けにした一つ一つ。
- ④ 一つにとけあうこと。

問五 傍線部①について、著者がそう考える理由について簡潔にまとめなさい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

数年前、毎週、歯医者さんに通っていた。歯科医院が、眼科や耳鼻咽喉科とともに、一般の病院と異なるのは、患者に年齢の偏りがないということである。お年寄りもいれば幼児もいる。ふだん間近に見ることのないそういうひとたちのふるまいやたずまいを、見ることもなく観察するのは、治療前のちよつと心細い時間のなかでの、ささやかな愉しみでもある。

わたしが^③モクゲキしたほほえましい光景のひとつを紹介しよう。歯医者さんには、^⑥シユウカンシのほかに、子ども用に絵本やおもちゃが備えてある。それをめざとく見つけたその幼児は、お母さんに「あれ、読んで」とおねだりしていた。お母さんはさっそく絵本を手にとり、子どもを^⑦ヒザに乗せて読みはじめたのだが、子どもははじめこそ絵本をのぞいていたものの、やがて気はよそに行きだした。となりの子どものおもちゃが気になってしかたがないのである。眼は必死でそれを追う。

(1) お母さんは本を読み終え、子どもの気がよそに行っているのに気がついて、本を閉じる。すると、^④カンハツいれず、子どもは「もう一回」とおねだりする。「ちつとも聞いてないじゃないの」と、お母さんはためいきをつきながら、また最初から読みはじめる。子どもはこんどもまた眼光鋭く、となりの子の遊びを注視している。それに気づいてお母さんが読むのをやめると、子どもは「もつと」とせがむ。

奇妙なことである。^①聞く気がないのに、「読んで」とせがむ。このとき、子どもはいったい何を求めているのだろう。

たぶん、話の中身が重要なのではない。話の中身上に、母親の声がじぶんに向けられているということが大事なのではないか。つまりは、言葉の意味より言葉がじぶんに語りかけられているというシチュエーションのほうが、テキスト（物語の意味）よりテクスチュア（母親の声の肌理）のほうが。子どもはおそらく、じぶんが、いわば独占的に、母親の意識の宛先になっているという状況に浸っていたいのである。

最近、朗読の練習に通う中高年の方たちが増えているそうだ。うまくなったら、ボランティアで保育園や幼稚園に出かけ、子どもたちに語り聞かせようというわけだ。気持ちには分らないでもないが、ひっかかる。

じぶんが子どもだったら、と考えてみる。ひとりで寝つくとき、枕元で母親が本を読んでもれるとする。そのとき、淀みない朗読に(2)心はほどかれるだろうか。字を読みまちがえてもいい。劇的な^⑤ヨクヨウはなくてもいい。途中で居眠りして中断してもいい。それよりも、読みなれない本を、無理して、眠たいのを^⑧ガマンして、じぶんのために読んでくれている、そういう場面にじぶんがいられることが心底うれしいのではないか。声がまぎれもなくじ

ぶんに向けられているということが。

なれた朗読から響いてくるのは、不特定のひとに向けられた声だ。めりはりのある、⁽⁸⁾カンキウのある、澄んだ声。それはわたしに向けられているというよりも、だれが聞いても耳あたりのよい声だ。だからふつう、それはアナウンサーや俳優・声優など、不特定多数のひとに語りかけることを仕事にしているひとたちが学ぶ。^{II} 子どもが朗読に求めるのはそういう声ではない。じぶんがだれかにたいせつにされていると感じられること、それをこそ子どもは望んでいる。

子どもは親の声の質に^(h)敏感である。学校に行くようになって、親の声が、社会のいちばん前の声が変わってくる。「ちゃんと宿題したら、遊園地に連れて行ってあげますからね」「もし〜できたら」という、ひとに対してまず資格を問う社会の最前列の声になってくる。親の顔のうしろ、声の背後に、社会が透けて見えてくる。いうまでもなく、そのような顔、そのような声が向けられるのは、じぶんの子どもというより、社会のなかのじぶんの子どもである。「あそこのお家のくちゃんはちゃんとやっているよ」と、子どももまた社会のなかに置かれる。話すほうも聴くほうも、社会の〈標準〉という枠組みのなかで語りだされる。

子どもが、いや大人でも、ほんとうに浴びたい声はそういうものではない。背後に社会が透けて見えない、だれかの存在そのものであるような声、もっぱらわたしのみを宛先としている声である。^{III} そういう声のやりとりのなかで、ひとはまぎれもない〈わたし〉になる。

〈わたし〉を気づかう声、〈わたし〉に思いをはせるまなざし。それにふれることで、わたしは〈わたし〉でいられる。気づかいあうこと、それは関心をもちあうことである。⁽³⁾

関心 (interest) の語源は、interesse (インテル・エッセ)、「ともにある」「相互的に存在する」というラテン語のフレーズである。

(鷲田清一『大事なものは見えにくい』より)

※出題のため、一部形式を改めている。

問一 傍線部①「モクゲキ」、②「シウカンシ」、③「ヒザ」、④「カンハツ」、⑤「ヨクヨウ」、
⑥「ガマン」、⑦「カンキユウ」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 空欄 ① ② ③ に入る最も適当な語句を次のア～オの中からそれぞれ一つ
選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一回しか使えません。
ア ちなみに イ やがて ウ なるほど エ はたして オ きつと

問三 傍線部①「敏感」の対義語を漢字で書きなさい。

問四 傍線部Ⅰ「聞く気がないのに、『読んで』とせがむ」とあるが、そのせがむ理由について、
筆者はどのように考えているのか、文中の語句を用いて簡潔にまとめなさい。

問五 傍線部Ⅱ「子どもが朗読に求めるのはそういう声ではない」とあるが、「そういう声」
とはどのような声か、文中の語句を用いて答えなさい。

問六 傍線部Ⅲについて、筆者は、どのような声のやりとりによって、人がまぎれもない「わ
たし」になると考えているか、文中の「社会」、「枠組み」、「わたし」の語句を用いて述
べなさい。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
ホ	イ
へ	ロ
	二

問二
A
B

問三
ハ

問四			
④	③	②	①

問五

受験番号				

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

〔1〕 な美からの脱却

「¹高速道路の美」には、鉄やコンクリートでつくられた建造物の美と、それが自然環境と一体となって形成する風景の美という二つの側面があるかと思う。いずれも機能性や合理性に立脚した、いわば即物的なエンジニアリングの美が基本となるが、二つ目の風景美については、ナチス時代のアウトバーンの例に見るように、国土・文明の理想像の追求という思想的な深みを伴う場合もある。

日本にとって高速道路は外来の文明^a。ソウチであり、その実現にあたっては、海外の先進事例から多くを学んだ。そのため美に関する問題を含め、世界の状況を知らずして日本の高速道路を理解することは難しい。そこで本論に入る前に、世界の高速道路の美、またその^bキチヨウとなるエンジニアリングの美について、少し考えてみたいと思う。

産業革命以降、建設技術の目覚ましい⁷発展を背景として、インフラ施設の規模や形は大きく変化した。それは、建設に用いる材料が、石、^c煉瓦、木、土といった伝統素材から、鉄やコンクリート、つまり工業生産が可能で、かつ、力学理論と一体で進化することで構造的可能性を広げる、という材料工学の発展によるところが大きい。

こうして実現したシンプルなコンクリートのアーチや巨大な鉄の骨格は、長年伝統素材を^d駆使して装飾豊かな建造物をつくり出してきた芸術家や建築家たちにとって、美の規範を^eイッダツする存在であった。例えば、フランスを代表する芸術家や建築家たちは、エッフェル塔がパリの美を破壊する忌まわしい鉄の柱であると糾弾している。一八八七年のことである。しかし、これに対してエッフェルは、力学の条件に合致することが形の調和の隠れた条件であり、それを実現することでこの塔には固有の美が備わった、と反論している。これは伝統的な芸術表現とは異なる、構造美という新たな美の宣言であった。ただ結局エッフェル塔は、構造に必要な装飾的なアーチを付加して建設され、その後もフランスのインフラ事業においては、伝統と近代の調和を意図した^f折衷的な美が^gモサクされていく。

しかし二〇世紀になると、エンジニアの構造物に^hシヨクハツされて、新たな芸術を目指す

芸術家が次第に^①台頭する。例えば、建築家ル・コルビュジエは、初期の声明書『建築にむかって』（一九二三年）において、「エンジニアの美と建築」の問題を真つ先に取り上げている。「エンジニアは健康的で力強く、^①活動的で、有益で、道義にかなない、^②陽気である。一方建築家は不満げで、仕事がなく、大言壮語し、気難しい。……エンジニアは自然の理法に適った計算を駆使し、その作品に調和が感じられる。それこそがエンジニアの美である」。ル・コルビュジエはエンジニアと建築家を対比的にとらえ、建築の古典的な美から脱却する一つの拠り所として、^{II}エンジニアリングの美を称揚したのである。

（北河大次郎「美しい日本の高速道路（二） エンジニアリングの美」

『究』二〇一九年十二月号より）

問一 傍線部①「ソウチ」、②「キチヨウ」、③「イツダツ」、④「モサク」、⑤「シヨクハツ」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 傍線部⑥「煉瓦」、⑦「駆使」、⑧「折衷」、⑨「台頭」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

問三 傍線部⑩「発展」、⑪「活動」、⑫「陽気」の対義語をそれぞれ漢字で書きなさい。

問四 この文章に見出しを付ける場合、空欄 1 に入る最も適当な語句を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 装飾的 イ 機能的 ウ 構造的 エ 因襲的 オ 対比的

問五 傍線部Ⅰ「高速道路の美」について、筆者は二種類の美があると言っている。文中の語句を用いて、それぞれの美について三字と二字で抜き出しなさい（句読点、記号なども文字数に含むものとする）。

問六 傍線部Ⅱ「エンジニアリングの美を称揚した」とあるが、ル・コルビュジエはどのよう
にエンジニアリングの美を捉えているのか。本文から三十六字で抜き出しなさい（句読
点、記号なども文字数に含むものとする）。

著作権の都合で
掲載しません。

解答用紙
(二枚のうち一)

問	
h	a
	b
	e
	g

問 一	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	

問三	ア				
	イ				
	ウ				

問四	
----	--

問五	
2	1
の美	
	の美

[illegible]

受験番号

著作権の都合で
掲載しません。

--

--

--

--

--

--

受験番号

二〇二五年度 一般選抜A入学試験問題(二月一日実施)

国語(六〇分)

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

このところ、^①コウエンの多くで私が話しているのは、「人類進化史から見た現代社会」というテーマである。

現代の生活があるのは、人々が過去に、その時々で生活で問題だと思ったことに技術で対処し、善かれと思つて改善してきたことの積み重ねの結果である。もつと楽に速く移動し、もつと大量の物資を動かしたいという欲求のもと、自動車や航空機などが発達した。遠くの人ともコミュニケーションを取りたいという欲求のもと、電話や無線機が普及した。いろいろな場所で起きたニュースをもつと速く多くの人々に届けたい、それを知りたいという欲求のもと、ラジオやテレビが発明され、普及した。

こんなことはみな、多くの人々の間に「あつたらいいな」と思う欲望があり、それらをかえる技術開発があり、それを普及させればもうかるという動機付けがあつて成り立つてきた。^②そんなことが普及した社会はどんな社会になるのか、それによつて失われるものがあるだろうかなど、誰も考えていたわけではない。

^③、今や各種のソーシャルメディアや生成AI(人工知能)などの情報技術が出てきて、いったいこれからどうなるのかが問題視されている。では、「私たち人間」とはどんな存在なのだろう? いろいろな技術はみな、私たち人間が、自分たちの欲望に基づいて発展させてきたはずなのだが、もともと「私たち」とはいったいどんな存在なのだろう?

ここ数百年、数十年の変化は大きい、「私たち」の本来の姿というのはあるのだろうか? 実はある。^④それを明らかにしてくれるのが人類学の知識である。

私たち人類はおよそ600万年前、アフリカで他の類人猿の仲間と分かれ、^⑤ジヨウシユウ的に直立二足歩行する種類となった。そしておよそ250万年前、森林を離れサバンナをてくてく歩いて暮らす、ホモ属という種類になった。ホモ属のいくつかの集団は、アフリカを出てユーラシア大陸に拡散した。その子孫の一部がジャワ原人や北京原人である。ヨーロッパから中東に進出した集団の一部は、ネアンデルタール人となった。

^⑥、これらのホモ属はみな、理由はよくはわからないが、数万年前までにすべて絶滅してしまった。そしておよそ30万年前、アフリカに残っていた集団から新たに、私たち自身

受験番号

であるホモ・サピエンスが進化した。そして、およそ7万年前から再びアフリカを出て全世界に拡散して現在に至る。今、全世界に80億人近く存在する私たちはすべて、7万年前ごろにアフリカを出た集団の子孫だ。

その「私たち」の祖先は、およそ1万年前まで、全員が狩猟採集で暮らしていた。それは^①ケモノを狩猟し、食べられる植物を採集して暮らす生活である。定住はしない。食料源が少なくなれば移動する。他者と一緒にいなければ生きていけないので集団を作るが、どんな他者と一緒にいるかは、そのメリット、デメリットによって選ぶことができる。

学校も警察も病院もないので、全ての困難には個人がなんとか対処する能力を持っていない。②いわずに「専門家」というものはいない。誰もがなんでもできるマルチ人間なのだ。貨幣はないので一人できないことはお互い様で助け合う。こんな生活がおよそ59万年続いた。

およそ1万年前、メソポタミアの一部で農耕と^③ボクチクが始まった。それは、食料の分布に応じて放浪するのではなく、1カ所に定住して食料を自分たちで生産する生活だ。そして19世紀半ばの産業革命により、私たちは、自前のエネルギー源を手に入れた。以後の技術の進歩により、私たちの生活は激変した。大事なものは、人類進化史の99%もが狩猟採集生活であったことだ。これこそが、私たちのからだと脳の基本作動が進化した舞台なのである。

1カ所にずっと住むことも、時計とカレンダーに支配されて動くのも、一定年齢の子どもが学校という場所に集められるのも、人類史で言えばごく最近のことに過ぎない。みんなが何かの「専門」に特化し、自分ができないすべてのサービスを貨幣で買うのも、その貨幣を稼ぐために働くのも、ごく最近のこと。文明生活は便利だが最適になるように設計したわけではない。さまざまな「便利」のつぎはぎなので、ほころびは至るところにある。それらは直していけばいいのだ。

（毎日新聞「時代の風」「私たち」本来の姿とは 文明は「便利」のつぎはぎ」

〈二〇二四年八月四日〉より）

問一 ①「コウエン」、②「ジョウシュウ」、③「ケモノ」、④「ボクチク」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 傍線部⑤の「そんなこと」とはどんなことか。「欲望」の語句を用いて簡潔にまとめなさい。

問三 空欄⑥および⑦に入る最も適当な語句を次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ⑥ ア あるいは イ および ウ さて エ さもないと オ だとすれば
⑦ ア 逆に イ このように ウ しかし エ そのため オ または

問四 傍線部⑧の「それ」とは何を指すのか。文中より十字で抜き出さない（句読点、記号も字数に含むものとします）。

問五 傍線部⑨と同じ品詞が使われていない文章を次のア～オの中から一つ選びなさい。

- ア あらゆる手段を講じる
イ 大きな時計台が見える
ウ きれいな景色だ
エ この本は貴重だ
オ とんだ災難だった

問六 筆者が「私たち」と「私たちの祖先」との違いを対比的に示している最も適当な語句を文中からそれぞれ三字と五字で抜き出さない（句読点、記号も字数に含むものとします）。

問七 問題文は大きく二つの意味段落に分けることができる。二つ目の意味段落の始まりを文中から三字で抜き出さない（句読点、記号も字数に含むものとします）。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

最近のスマホユーザーは「^aケンサク」もやらなくなっているという話をききました。パソコンではなくスマホ^①。ゼンセイの時代になってからは、他者とのメッセージのやりとりばかりになって、物事を「知りたい」という意欲さえなくしているというのです。

〔1〕人々は、SNSの罫から抜けだせないのでしょうか。それは社会そのものが、SNS化しつつあるからではないかと私は思います。

これを理解するには皆（集団）と私（個人）という二分法を使って考えていくと^①簡単です。SNSは「皆」の側に属していて、人とのつながりを基本としています。それに対して考える、あるいは本を読む、書くという行為は「私」に属しています。もしもネット上のつながりばかりに興味がいき、^②自力で考えることや、読み書きがおろそかになっているとすると、それは思考の^③ジクアシが「私」ではなく「皆」にあるということ、これすなわちSNSの人間になっているということです。

I 紙に記された書き言葉は「私」に属していますが、ネット上を行き交う言葉は「皆」に属しているのです。

読むという行為は文を通して考え、自分と向き合うということですし、書くということはまぎれもなく自己との対話にはかなりません。

一方、ネットでメッセージを発信するのは何よりも誰かとつながるということを目的とします。「つながり」「絆」を強調する最近の社会的風潮は、SNS的な価値観のあらわれでもあります。

「私」の側にある言葉は、ときに自分の奥深くに分け入って^④クトウしたり、また^③真理を解き明かそうと、時間をかけて言葉を費やしながら努力しますが、「皆」の側にあるネット上の言葉は、他人とつながるための道具として使用される。道具だから、その言葉自体が重要なのではなく、相手を瞬間的に引きつけるロープとして必要なものであって、用がすめばすぐにいらなくなるのです。

また従来の書き言葉は、本のようにいったん記されると長い間そこにとどまりメッセージを発信しつづけます。しかし、ネット言葉は「流れ」のなかにあります。^{II}書き言葉がストック、ネット言葉がフロー。対比的に整理するようになります。書き言葉が「私」の中に掘られた井戸に溜まっていくとすれば、ネット言葉は「皆」の間を川のように流れていく。SNSで発信した言葉は、三日もすればすっかり忘れ去られてしまいます。^{〔2〕}忘れられるということとを前提に発信されているといいかもしれません。

現代社会の言葉はSNSなどに流れるネット言葉の影響によって透明のラップのように薄く

なり、しだいに意味を失いつつあるように思えます。紙の上の活字がデジタル文字によって^e イッソウされつつあるようで、私は不安になります。

というのも、SNSが「個」の発信ではなく、結果として「集団」への^f ジュウゾクを促進する装置のように見えるからです。「私」を伝えているように見えながら、実は「皆」に溶けこむために発信されている言葉、それによって組み立てられるのが、スマホ的思考です。

これまでの社会は、自立した個人の成長や成熟を「読むこと」「書くこと」「生の対話」によって実現しようとしてきました。⁽³⁾ 現代のスマホ中心の情報社会は、個人の自立的な思考よりも、集団への参加とつながりを第一義的に考えるように、人々の内面を知らないうちに変化させているのではないでしょうか。

時に「私」は「皆」と対立することもあるはずですし、社会はそれを許容するものでなければなりません。 ⁽⁴⁾ SNSなどのネット社会が、集団のなかで個人が自立的に考え、自己形成を行うことをはばむものとして存在しているのなら、私たちはそれに対して、何らかのかたちで「ノー」を突きつける必要があると思います。

(藤原 智美『スマホ断食 コロナ禍のネットの功罪』より)

問一 傍線部①「ケンサク」、②「ゼンセイ」、③「ジクアシ」、④「クトウ」、⑤「イッソウ」、

⑥「ジュウゾク」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 空欄(1)～(4)に入る最も適当な語句を次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-----|--------|--------|-------|-------|--------|
| (1) | ア たぶん | イ なぜ | ウ やつと | エ まず | オ きつと |
| (2) | ア もしも | イ まだ | ウ たとえ | エ むしろ | オ はたして |
| (3) | ア しかし | イ なぜなら | ウ すると | エ および | オ だから |
| (4) | ア かならず | イ いつか | ウ もしも | エ きつと | オ たとえ |

問三 傍線部①「簡単」、②「自力」の対義語をそれぞれ漢字で書きなさい。

問四 次のア、イの意味に合う傍線部③「真理」の同音異義語を、それぞれ漢字で書きなさい。

ア 心の働きやそのさま

イ 事実を詳しく調べてはつきりさせること

問五 傍線部Ⅰについて、筆者がどのように考える理由について、文中の言葉を使って簡潔に答えなさい。

問六 傍線部Ⅱについて、筆者は両者をどのように例えて説明しているか。それを表す一文の最初の四文字を、文中から抜き出して答えなさい（句読点、記号も字数に含むものとします）。

問七 筆者が述べているSNSなどのスマホ中心の情報社会の問題点について、文中の「個人」「集団」「自立的」「つながり」の語句をすべて用いて述べなさい。

二〇二五年度 一般選抜A入学試験問題（二月一日実施）

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一		問二		問三	問四	問五		問六	問七
e	a	(1)		①	ア				
		(2)							
f	b	(3)		②	イ				
		(4)							
	c								
	d								

受験番号				

国語（六〇分）

一次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ゲーム依存もインターネット依存も、いうまでもなく「依存症」の一種です。依存症とさえばまず連想されるのはアルコール依存症、それから薬物依存症でしょうか。いずれもおとなの問題ですし薬物依存症は犯罪に関わることも多く、子どものゲーム依存やインターネット依存とは異質なもののように思われますが、そう安心してはいられません。

依存症にはさまざまな種類があり、数え上げればきりがありません。けれども、何に依存するかは違っていても、依存症に①オチイッタ人々の言動やふるまい方は互いに非常によく似ているという特徴があります。どうやら依存症の患者さんの脳の中では、依存の対象にかかわらず同じようなことが起きているようなのです。

脳の中には報酬系と呼ばれる回路があり、人間の動機づけや「やる気」の形成に関わっていることがわかってきました。何かを経験して「面白い、楽しい」と感じると報酬系が活性化され、その経験をくり返すよう人を促します。人間の成長や活気の原動力である「意欲・やる気・動機づけ」といった心の働きは、報酬系と関わっているに違いありません。

その一方で、報酬系は依存症のカラクリにも関わっている可能性があります。報酬系がさまざまな刺激に対してバランスよく反応するなら良いのですが、ある特定の刺激に対してだけ極端に強く反応するとしたらどうなるでしょうか。他のことはすべてそっちのけ、寝ても覚めても特定の刺激だけを追い求めることになりかねないでしょう。動物実験では報酬系を刺激することによって、実際にそのような現象を作り出すことができます。そしてこれこそが「依存症の脳の中で現実に行き起きていることと考えられます」。

アルコール、ゲーム、ケータイ、ギャンブル、対象こそ違え、脳の中では共通の変化が起きていること、依存症の怖さがそこにあります。他愛なく見える子どものゲームのやり過ぎが、実は「依存症」という途方もない深みにつながっているかもしれないのです。

たとえばアルコール依存症。患者数は全国で80万人にのぼると推定され、予備群ともいえる多量飲酒者は800万人を超えとも言われます。その背景には、日本の社会が世界的に見ても飲酒に甘いという事実があります。お祝い事や②コンシンの席にお酒は欠かすことができません。「A」と呼ばれて推奨されますが、その危険については十分に周知されていません。

過量飲酒が身体や精神に害を及ぼすのは常識として、アルコール依存症がとりわけ人間関係

への強い破壊作用をもつことはご存じでしょうか。「お酒が原因で大切な人との人間関係にひびが入ったことがあるかどうか」は、アルコール依存症のチェックリストの^㉑「ヒットウ」に置かれるほどの重要なポイントです。これはアルコールに限らず、多くの依存症に共通する特徴と言えます。

Ⅱ 特定の対象に過剰に入れ込むことは、それ自体が非生産的であるばかりでなく、現実を広く見渡して柔軟に対処することを妨げ、とりわけ人間関係において他人の立場を思いやりながら自分の責任を果たしていく姿勢を^㉒「ソコナツテ」しまうのです。

もう一つ、一般に飲酒を開始した年齢が低いほど、アルコール依存症がすみやかに形成されることを知っておきたいと思います。若くて柔軟な脳は、誤ったパターンを学習するのも速いのです。

ずっと昔、お酒が一部の人にしか飲めない貴重品であった時代には、アルコール依存症も限られた人々の^㉓「贅沢病」でした。お酒が誰でも手に入れられる安価な^㉔「嗜好品」になった時、多くの人々の不幸が始まったのです。お酒ばかりでなく、報酬系を刺激する安くて便利な商品やイベントが世の中に満ち、毎日新たに作り出されていること、それが現代という時代の難しさでしょう。

(石丸昌彦『神さまが見守る子どもの成長——誕生・心・病・いのち』より)

※出題のため、一部形式を改めている。

問一 傍線部①「オチイッタ」、②「コンシン」、③「ヒットウ」、④「ソコナツテ」をそれぞれ漢字で書きなさい。ただし、①、②は送り仮名を含めて書きなさい。

問二 傍線部Ⅰ「依存症の脳の中で現実に起きていること」とは何か、「動機づけ」、「報酬系」、「特定」の語句を用いて述べなさい。

問三 空欄Aに入る慣用句は何か。左の①～⑥から最も適当なものを選び、番号で答えなさい。

- | | | |
|----------|--------|--------|
| ① 溜飲を下げる | ② 五穀豊穡 | ③ 医食同源 |
| ④ 万病の元 | ⑤ 百薬の長 | ⑥ 固めの杯 |

問四 傍線部Ⅱ「特定の対象に過剰に入れ込むこと」について、筆者はどのように考えているのか、簡潔に説明しなさい。

問五 傍線部⑤「贅沢病」、⑥「嗜好品」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

何故人の顔を見分けられるのか

このような状況を少し^a想像してみて欲しい。あなたはある特定の人物のことをよく知っていて、顔を見ればすぐにその人だとわかる。それは知人でもいいし、有名人でもいい。とにかく、あなたはその人の顔を知っている。そんなあなたの目の前に突然、おびただしい数の顔写真が並べられ、その中から知っている人の写真を探せと言われたとする。

顔写真は何百人分とあり、似たようなタイプの顔はいくらでも見つかるのだが、それでもあなたはそこまで苦勞せずに、^Iその人の顔写真を見つけることができるだろう。あなたが^bアイチャクを持っていて相手の場合はなおさら簡単に違いない。「ああ、この人です」などと言いながら、あなたは一枚の写真を手取ることになる。

しかし、そもそもあなたはどうかやって、その人の顔を見分けることができたのだろうか。その人の目の大きさや、鼻の形、^cクチビルの色、そしてそれらの配置などについて、正確な知識を持っていたのだろうか。仮にそのような知識を持っていたとして、あなたはそれを言葉で説明できるだろうか。

これらの質問を前にして、あなたは自分がその人の顔を特定できた理由を説明することがかなり難しいということに気づくだろう。写真を見れば^d一目瞭然だったことも、その内容を逐一言語化し^eゲンミツに規定しようとする、たちまち謎めいてくる。その人の目鼻立ちや^f輪郭などについて、あなたは「何か」を知っていたからこそ顔を特定できたはずだ。それにもかかわらず、その「何か」は簡単には言葉に置き換えられないのだ。

確かに言葉では上手く説明できない、それは認める。それでも、顔写真を見つけ出すことができたのだから、自分はその人の顔についてよくわかっているはずだ。あなたはひよつとするとそう思っているかも知れない。しかし、そんな時はお正月遊びで有名な福笑いを思い浮かべてもらいたい。もしあなたが知っている人の顔を様々なパーツに分けて、目や鼻だけ、または輪郭だけを、他の人たちのパーツと並べられたとしたら、果たしてあなたはその人の顔をすぐに見つけた時のように、その人の顔のパーツのことも見つけることができるだろうか。

おそらくだが、たとえサンプル数を先ほどより減らしたとしても、^g極端にナンインドは上がってしまうことだろう。そこであなたは気づくことになる。あなたはその人の顔のことをよく知っているつもりだし、実際よく知っている。それにもかかわらず、あなたはその人の顔の細かい部分について、別に正確な知識を持ち合わせているわけではなかったのだ。逆に言えば、あなたは人の顔を構成する各々の要素について明確に認識しないまま、言語化できない形

で総体としての顔を捉えることができるのだ。

マイケル・ポランニーの「(1)」

科学哲学者のマイケル・ポランニーは、このような知のあり方を「暗黙知」と名付け、その構造について論じている。まず、我々は顔を捉える際に顔の諸部分の特徴を知覚するが、その後、我々の注意は諸部分から総体としての顔へと移っていく。すると諸部分について我々は明確に述べることができなくなってしまう。ポランニーはこれを暗黙知の「機能的側面」と呼んでいる。ただ、機能的には諸部分についての明確な認識を失いつつも、我々は総体としての顔の持つ様相、つまり^(h)人相を介して諸部分をちゃんと知覚している。こちらは暗黙知の「現象的側面」と呼ばれている。

ちなみに人相とは、顔の諸部分が組み合わされることによって表される一種の「意味」だと言えるわけだが、我々が諸部分から受け取る情報は人相へと翻訳される。そして諸部分そのものは無「意味」化して⁽ⁱ⁾後景へと退いていく。これが暗黙知の「意味論的側面」である。

人相の特定という例だけではこの「意味論的側面」は非常にわかりにくいので、ポランニーは暗闇の中を歩くために使う探り棒や、目の見えない人が利用している杖の例を新たに持ち出している。探り棒や杖を初めて使う人は最初、それを握る手の感覚に気を取られるが、慣れてくるに従って棒や杖の先端がどこかに触れている感覚に集中するようになる。すると、手が受け取っていた感覚の「意味」は、「棒や杖を持つている」から「道を探っている」へと、いわば遠ざかっていく。しかし、「意味」が我々から遠ざかっている時こそ暗黙知は活性化し、我々は棒や杖をまるで体の^(j)一部かのように自由自在に^(k)アヤツルことができるのだ。

このようにポランニーは暗黙知の持つ三つの側面を説明した後、これから推論される最後の四つ目の側面、彼が暗黙知の「存在論的側面」と呼ぶものを^(l)シテキしている。それは言うなれば、「^(II)暗黙知は結局何を認識するものであるか」という問いに対する答えなのだが、人相を特定するにせよ、探り棒や杖を巧みに使って見えない道を探り当てるにせよ、暗黙知とは実は「包括的存在」を理解することなのだ、ポランニーは言うのだ。

(中島啓勝『ておくれの現代社会論』より)

※出題のため、一部形式を改めている。

問一 傍線部⑥「アイチャク」、⑦「クチビル」、⑧「ゲンミツ」、⑨「ナンインド」、⑩「アヤツル」、⑪「シテキ」をそれぞれ漢字で書きなさい。ただし、⑫については送り仮名を含めて書きなさい。

問二 傍線部⑬「一目瞭然」、⑭「輪郭」、⑮「人相」、⑯「後景」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

問三 傍線部⑰「想像」、⑱「一部」の対義語をそれぞれ文中から探し、漢字で書きなさい。

問四 この文章に見出しを付ける場合、空欄(1)に入る最も適当な語句を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 認識能力
- イ 四つの構造
- ウ 暗黙知
- エ 情報と人相
- オ 論理的推論

問五 傍線部Ⅰ「その人の顔写真を見つけることができるだろう」とあるが、なぜ見つけることができるのか。筆者の考えを六十字以内でまとめなさい（句読点、記号なども文字数に含むものとする）。

問六 傍線部Ⅱ「暗黙知は結局何を認識するものであるか」という問いに対するポランニーの答えを、文中からそれぞれ五字と六字で抜き出しなさい（句読点、記号なども文字数に含むものとする）。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
㉠	㉡
㉢	㉣

問二

問三

問四

問五
㉤
㉥

受験番号				

2026年度 入学試験問題

<解答>

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
⑤	④
簡潔	象徴
⑥	③
支え	崇め
	②
	即座

問二
①
けげん

問三
常緑樹が寒さに耐えるためにしている努力や、しくみに触れていないから。

問四
①
イ
②
ウ
③
ア

問五
葉っぱの中の水分に、糖分やビタミン、アミノ酸などの物質を増やすことによって、葉っぱが凍る温度が下がり、葉っぱが凍りにくくなる。これが「凝固点降下」という現象であり、常緑樹はこの現象を起こす工夫をして、冬の寒さを乗り越えている。

問六
植物は、動物に食べられないように、糖分やビタミン、アミノ酸だけでなく、苦かったり、えぐかったり、有害な物質も葉っぱに含んでおり、食べると嘔吐や下痢をする可能性があるから。

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一
㊶
ぎょうもう
㊷
おびやかす

問二	
㊸	㊹
衝突	漂着
㊺	㊻
喫緊	死骸
	㊼
	危惧

問三
ゴーストギアとなって海を漂う漁具がアザラシやウミガメ、魚などを捕らえて死なせるゴーストフィッシングを引き起こす。

問四	
マ	条
ー	約
キ	づ
ン	く
グ	り

問五		
流出防止策の強化	漁具リサイクルの徹底	中小漁業者への支援

問六
太平洋でゴミが集まる「太平洋ごみベルト」で回収された漁具の多くが日本のものであり、ゴーストギア問題に大きく関わっているため。

問七
ウ

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
⑥	①
弁証	丁寧
⑧	②
指南書	円滑
	④
	吟味

問二
③
ひとくくり
⑤
むじゅん
⑦
はけん

問三
ウ

問四
(ア)
②
(イ)
④
(ウ)
①
(エ)
②

問五
作文を書く目的が異なるから。

問六
論理的思考はグローバルに共通なものではなく、 実は文化によって異なっており、それぞれの教育の過程で 身につけていくものということ。

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一
① 人工
② 客観
③ 複雑

問二
④ 抽出
⑤ 快適
⑥ 癒やし
⑦ 蓄積
⑧ 分泌

問三
コ
ル
チ
ゾ
ー
ル

問四
リラックス時に高まる副交感神経の活動が72%上昇した一方、ストレス状態になると高まる交感神経活動は17%低下した。また、唾液中のコルチゾール濃度も低下した。

問五
高ストレス状態の人はリラックスし、少しぼんやりした状態の人は元気になる。 血圧の高い人は下がり、血圧の低い人は上がる。

問六
森林に足を運ばなくても、公園や部屋の植物、木材に触れるといった身近な自然によって、ストレス軽減効果やリラックス効果が得られることから、自分の好みを尊重して、日常生活にうまく自然を取り入れることをすすめている。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
㉠	㉡
頻繁	皆目
㉢	㉣
術	編み

問二	
低賃金労働	環境負荷

問三
修理がより自由にできる
社会

問四	
「まられた生活」をよしとする	「新しくて完全なものに囲
考え	

問五
自分で決めるのではなく、修理できない、部品がないという外部要因で自分の暮らしが決められてしまうこと。

問六
モノが壊れた時に買い替えるだけでなく、修理を選択することで、長く時間や経験を共有するモノとして愛着がわき、それらに囲まれることで自分の人生を生きていると思えるから。

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一
①
しにせ
④
いしょう
⑧
かいまみる

問二	
⑥	②
透明	流通
⑦	③
趣向	社寺
	⑤
	儀式

問三
3

問四
和菓子そのものにミニチュア化された自然や自然現象のことで、この自然に見立てた和菓子によって見る人・食べる人は四季や自然を感じる。

問五
D

問六
万物が無常であるのと同じように、和菓子は食べてしまうと一瞬でその姿形が消えてなくなってしまうはかないものだから。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
④	①
思惑	頻度
⑤	②
敢えて	譲り
⑥	③
叱る	所与

問二	
B	A
2	5

問三	
D	C
2	3

問四
私達はいつも世間を意識し、世間の目を恐れて排除されないよう言動に気をつけながら生きている、ということ。

問五	
②	①
世間は理屈を超えたものであり、感情とも深く関わるので合理的に説明することができないため。	親は自分が経験した世間しか知らず、普遍的な形で説明ができないため。

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一		⑤	①
尊厳		⑦	②
法令		貢献	
壮絶		③	
披露			

問二	④	たまもの	⑥	けいじ	⑧	きせき
----	---	------	---	-----	---	-----

問三	社	会	で	「	役	に	立	つ	」	こと
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

問四	体制順応的な実利性に奉仕するだけで、人間の命そのものについて、自然の摂理について、真に学ぶことは不可能なもの。									
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問五	自分が何も知らないことをよく知っている謙虚で聡明な知性									
----	------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問六	(1)	知	識	(2)	知	性
----	-----	---	---	-----	---	---

2025年度 入学試験問題

<解答>

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
①	②
回答	生業
③	④
創出	勘案
⑤	
偏向	

問二
⑥
校正
⑦
公正

問三
⑧
かもした

問四			
①	②	③	④
浸透	研究	部分	融合

問五
取材相手が話した要点はまとまっていなくても、それと記事化すべきことが必ずしも一致するとは限らないため。

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一	
①	目撃
②	週刊誌
③	膝
④	間髪
⑤	抑揚
⑥	我慢
⑦	緩急

問二
①
イ
②
エ
③
ア

問三
④
鈍感

問四
子どもにとって、話の中身以上に、母親の声が自分に向けられているという状況が重要で、子どもは独占的に、母親の意識の宛先になっているという状況に浸っていたいからだ、と、筆者は考えている。

問五
不特定の人に向けられた、だれがきいても耳あたりの良い声。

問六
社会のへ標準Vという枠組みの中で語りだされる声ではなく、背後に社会が透けて見えない、だれかの存在そのものであるような声、もっぱらわたしのみを宛先としている声。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
①	②
触発	装置
	③
	基調
	④
	逸脱
	⑤
	模索

問二
⑥
れんが
⑦
くし
⑧
せつちゆう
⑨
たいとう

問三
⑩
衰退
⑪
休止
⑫
陰気

問四
エ

問五	
2	1
風景	構造
の美	物の美

問六		
感じられる。	計算を駆使し、その作品に調和が	エンジニアは自然の理法に適った

著作権の都合で
掲載しません。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
㏁	㏃
獣	講演
㏂	㏄
牧畜	常習

問二
人々の生活が「あったらいいな」という欲望とそれをかなえる技術開発、そしてそれを普及させることでもうかるという動機付けによって成り立つこと。

問三
㏅
ウ
㏆
ウ

問四
「私たち」の本来の姿

問五
ウ

問六	
私たちの祖先	私たち
マ	専門
ル	家
チ	
人間	

問七
私たち

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一	
㉔	㉑
一掃	検索
㉕	㉒
従属	全盛
	㉓
	軸足
	㉖
	苦闘

問二
（1）
イ
（2）
エ
（3）
ア
（4）
ウ

問三
①
複雑
②
他力

問四
ア
心理
イ
審理

問五
書くということは自己との対話にほかならず、一方、ネットでメッセージを発信するのは、何よりも誰かにつながることを目的としているから。

問六
書
き
言
葉

問七
現在のスマホ中心の情報社会は、個人の自立的な思考よりも、集団への参加のつながりを第一義的に考えるように人々の内面を変化させ、また集団のなかで個人が自立的に考え、自己形成を行うことをはばんでいる可能性があること。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
ハ	イ
筆頭	陥った
ニ	ロ
損なつて	懇親

問二
脳の中で、人のやる気や動機づけに関わる報酬系と呼ばれる回路が、ある体験や特定の刺激によって活性化され、その体験（刺激）ばかりを極端にくり返すように促している。

問三
⑤

問四
特定の対象に過剰に入れ込むことは非生産的で、広い視野をもった柔軟な対応の妨げとなるだけでなく、思いやりのない無責任な態度を引き起こすことから、人間関係を破綻させる要因ともなると筆者は考えている。

問五
㊦
ぜいたくびよう
㊧
しこうひん

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一	
①	②
操る	愛着
③	④
指摘	唇
	⑤
	厳密
	⑥
	難易度

問二	
⑦	⑧
にんそう	いちもくりようぜん
⑨	⑩
こうけい	りんかく

問三
⑪
実際
⑫
総体

問四
ウ

問五			
捉え	化	い	人
る	で	て	の
こ	き	明	顔
と	な	確	を
が	い	に	構
で	形	認	成
き	で	識	す
る	総	し	る
か	体	な	各
ら	と	い	々
	し	ま	の
	て	ま	要
	の	、	素
	顔	言	に
	を	語	つ

問六	
存	包
在	括
論	的
的	存
側	在
面	

